

令和6年度 ISO/IEC国際会議への専門家派遣に係わる補助事業報告

会議名	開催地	開催日	参加国・機関及び人数	出席者（報告者）	概要
ISO/TC261-ASTM F42 合同国際会議	アメリカ オハイオ州 ロンバス	2024/4/14-20	ABNT (ブラジル),AFNOR (フランス),ANSI (アメリカ), BSI (イギリス),DIN (ドイツ),IPQ(ポルトガル),JISC (日本),KATS (韓国),SA (オーストラリア),SCC (カナダ),SIS (スウェーデン) 参加国名11ヶ国 計50名	西田 元紀	<p>本会議は、TC261付加製造(AM : Additive Manufacturing)に関する国際標準化に向けISOとASTMが合同で年に2回開催している。今回は、ASTM主催で米国開催となった。</p> <p>TRAFAMが日本国メンバー（JISC）の団長として参加した。尚、初日は、ASTM Workshopが開催され、その翌日からISO/TC261-ASTM 合同の会議が行われた。</p> <p>WG2では、AM付加製造のプロセス、システム及び材料が対象となっている。TC261にあるWGの中では、最も規格提案が多く活発に活動が行われている。WG2の会合及び関連JGの会合に参加し、状況を確認した。またセラミックスに関する規格化の進捗も確認し、日本での対応を検討する予定である。</p> <p>日本が提案しているWG3-JG77砂型標準試験の規格ISO/TC261-ASTM-52919についてWG3会合にてDISステージで投票結果を報告し、今後FDISへ進むこととなった。またWG3での新たな規格提案として積層造形による鋳造用砂型の物理的な試験方法についてプレゼンテーションを実施した。</p> <p>各WG、JG及びASTMの会議に参加し規格の進捗など確認した。AMに関する標準化の対象は、材料、装置、用途とますます拡大しつつある。新たな規格開発としては、リスク管理に関するものや環境、安全に関するものが出てきた。今後、進展を注目したい。</p> <p>今回の参加国は、11ヶ国であったが、前回参加があった中国からの参加がなく、米国での開催の影響と考えられる。</p>
ISO/TC261-ASTM F42 合同国際会議	アメリカ オハイオ州 ロンバス	2024/4/14-20	ABNT (ブラジル),AFNOR (フランス),ANSI (アメリカ), BSI (イギリス),DIN (ドイツ),IPQ(ポルトガル),JISC (日本),KATS (韓国),SA (オーストラリア),SCC (カナダ),SIS (スウェーデン) 参加国名11ヶ国 計50名	鈴木 逸人	<p>本会議は、TC261付加製造(AM : Additive Manufacturing)に関する国際標準化に向けISOとASTMが合同で年に2回開催している。今回は、ASTM主催で米国開催となった。</p> <p>TRAFAMが日本国メンバー（JISC）の団長として参加した。尚、初日は、ASTM Workshopが開催され、その翌日からISO/TC261-ASTM 合同の会議が行われた。</p> <p>日本が提案しているWG3-JG77砂型標準試験の規格ISO/TC261-ASTM-52919についてWG3会合にてDISステージで投票結果を報告し、今後の進め方について協議し、FDISへ進むことへの助言をもらい、今後、2024年に規格発行を目指す。</p> <p>WG3の会合では、新たな規格提案として積層造形による鋳造用砂型の物理的な試験方法についてプレゼンテーションを実施した。各国の反応は、好意的なことが多かったが、事務局から他のTC例えば鋳造での規格化にならないか調べるようにアドバイスがあった。</p> <p>各WG、JGに参加し規格の進捗など確認した。AMに関する標準化の対象は、拡大しつつある。新たな規格開発として製造時のリスク管理に関する規格案を進めており、実用生産に即した規格であり、今後重要な規格として注視したい。</p> <p>今回の参加国では、前回の韓国では10名以上の参加があった中国からの参加がなく、世の中の情勢を反映している。</p>
IEC SC23E/WG1, WG2	スペイン カディス	2024/4/23-25	フランス、イタリア、スペイン、イギリス、ドイツ、オーストリア、ベルギー、スイス、インド、アメリカ、オーストラリア、中国、日本 計22名	坪井 俊治	<p>WG1：住宅用配線用遮断器IEC60898-1の短絡試験回路図に対する修正提案内容の検討実施及びTC34から照明器具の突入電流を規定するにあたりブレーカの特性曲線を規定化することに対する質問の検討を実施。また、リエゾンとなるSC121Aで検討している半導体式配線用遮断器の検討状況の情報共有を実施。この内容は新規に設立されたSC23E/WG12で半導体式住宅用漏電遮断器の規格開発の内容とリンクするため注視すべき規格である。</p> <p>WG2：住宅用漏電遮断器（過電流保護なし）IEC61008シリーズ（3規格）及び住宅用漏電遮断器（過電流保護付き）IEC61009シリーズ（3規格）の合計6規格のFDIS発行に向けたエディトリアル修正のコメント審議実施。また、ワークショップを行い、今後の活動の方向性について意見交換を実施。この中で、EV充電、DC回路、環境、デジタル（サイバーセキュリティ、組み込みソフトウェアなど）などがキーワードとして挙げられた。</p>
IEC SC23E/WG12	ドイツ フランクフルト	2024/6/4-6	フランス、イタリア、イギリス、ドイツ、オーストリア、オランダ、日本 計22名	坪井 俊治	<p>新設された本WGで半導体式住宅用漏電遮断器（過電流保護付き）IEC63464-1のCD文書発行に向けて検討を前回に引き続き実施した。本文の検討に先立ち、適用範囲に含まれている直流の影響について関連するODCA、Current/OSでの活動内容及びSC121A/PT10での検討状況の説明および内容に対する意見交換が行われた。取り分けCurrent/OSについては初めて得られる情報でIEC SyC LVDCとリエゾンで活動し、ULのリスクアセスメントをベースとした6つのZoneに分け、配電可能な3つのZoneに重点を置いて検討が進められていることがわかった。なお、Current/OSには、イートン、ABB、シュナイダーが参画している。また、基本機能であるスイッチングについて、機械接点で行えるもの、半導体接点で行うものを検討したが、結論に至るまでに利害関係者（シーメンス、シュナイダー）と中立に発言する者と複数の意見があり妥協点を見つげながらの議論となった。本文の検討では、構造の箇条において機械接点と半導体接点を組み合わせて構成する製品であるため用語の定義の認識にゆらぎが出たため今回のWGで整合を行った。</p>

令和6年度 ISO/IEC国際会議への専門家派遣に係わる補助事業報告

会議名	開催地	開催日	参加国・機関及び人数	出席者（報告者）	概要
ISO/TC37/SC5/WG1,WG2,TWG	ベルギー ブリュッセル	2024/6/3-7	日本、カナダ、ドイツ、オーストリア、スペイン、スウェーデン、オーストラリア、スロバキア、セルビア、アルゼンチン、EU、EC、EU Parliament、EULI TA、AIIC 計50名	佐藤 晶子	<p>1. 6月3日（月曜日）</p> <ul style="list-style-type: none"> - 11:00-13:00 会議のホスト向けのトレーニング（会議室03P750、オンライン会議併設） - 13:00-14:00 ISO/TC 37/SC 5の開会全体会議（会議室01P100） - 15:00-17:00 ISO/TC 37/SC 5/TCGの次のフェーズに関する会議（会議室03P750） <p>2. 6月4日（火曜日）</p> <ul style="list-style-type: none"> - 09:00-12:00 ISO/TC 37/SC 5/WG 1の管理・その他に関する会議（会議室03P750） - 09:00-12:00 ISO/TC 37/SC 5/WG 2のISO 20228改訂に関する会議（会議室08P750） - 14:00-17:00 ISO/TC 37/SC 5/WG 1のEULITAによる新業務項目提案（NWIP）に関する会議（会議室03P750） <p>3. 6月5日（水曜日）</p> <ul style="list-style-type: none"> - 09:00-12:00 ISO/TC 37/SC 5/WG 1のISO 17100の体系的見直し（SR）に関する会議（会議室03P750） - 14:00-17:00 ISO/TC 37/SC 5/WG 1のISO/AWI 18587に関する会議（会議室04P750） - 14:00-17:00 ISO/TC 37/SC 5/WG 4のISO/TS 6253と次のフェーズに関する会議（会議室06Z740） <p>4. 6月6日（木曜日）</p> <ul style="list-style-type: none"> - 09:00-12:00 ISO/TC 37/SC 5/WG 1のISO/AWI 18587に関する会議（会議室08P750） - 09:00-12:00 ISO/TC 37/SC 2の全体会議（会議室06Z720） - 09:00-12:00 ISO/TC 37/SC 5/WG 4のISO/TS 6253と次のフェーズに関する会議（会議室03P750） - 14:00-17:00 ISO/TC 37/SC 2/WG 2のISO 10241-2改訂に関する会議（会議室03Z065） - 14:00-17:00 ISO/TC 37/SC 5/WG 1のJISCによる新業務項目提案（NWIP）に関する会議（会議室03P750） Project Leader:佐藤 発表、Co-Project Leader:オーストリア代表Manfred Schmitz氏、エディタ：カナダ代表 Davide Lowe氏に依頼予定 <p>司会：SC5WG1 Convenor Julio Montero氏（カナダ）</p> <p>5. 6月7日（金曜日）</p> <ul style="list-style-type: none"> - 09:00-12:00 ISO/TC 37/SC 5の閉会全体会議（会議室01P100） <p>各国投票で、日本が初めてProject Leaderとなる翻訳関連国際規格を各国投票で回覧することが満場一致で採択された。</p>
The 14th Plenary Meeting of ISO/TC249	オーストラリア シドニー	2024/6/2-6	参加国名：Australia, Canada, China, Germany, India, Japan, Korea, Netherlands, New Zealand, Saudi Arabia, UK and USA. 参加人数：約70名	豊田 建	<p>ISO/TC249は、伝統中国医療の標準化に関する技術委員会（TC）である。JWG1は、TC249とTC215（保健医療情報の標準化）の合同WGであり、豊田が議長（コンビナー）を務めている。</p> <p>JWG1では、9つの規格が審議された。</p> <p>1）8年前に日本から提案された規格である、ISO/TS 16843-1:2016 Health informatics - Categorial structures for representation of acupuncture - Part 1: Acupuncture points は、TS（Technical Specification）として出版され、3年ごとの2回のSystematic Reviewで高く評価された。今回、中国や韓国の支援を受け、IS（国際標準）の審議に向かうことになった。</p> <p>鍼灸の分野の基本（Acupuncture points）について、日本提案の規格が国際標準となることは、鍼灸の分野の標準化を進めていくうえで、日本がリーダーシップをとれる可能性が高く、日本にとって望ましいことである。</p> <p>2）今回、6つのNP（新規の提案）があり、2規格が承認され、4規格が不承認となった、いずれも中国提案であり、修正のうえ、次回NP ballotにかかることになった。</p> <p>ISO/PWI TS 24659-1、ISO/AWI TS 24659-2、ISO/PWI TS 23403、ISO/PWI TS 10671.2、ISO/PWI TS 25083、ISO/NP TS 16601</p> <p>3）中国提案の2つのTSもSystematic Reviewで承認された。</p> <p>ISO/TS 23030:2020、ISO/CD 16843-2</p> <p>4）今回審議の対象となった規格のうち、日本からの規格は前記の鍼灸の1つであるが、その他の規格に対する日本からの意見はすべて、修正に反映された。</p>
ISO/TC 110/SC 2/WG 2	イギリス ロンドン	2024/6/22-30	フランス(ANFOR)、USA(ANSI)、UK(BSI)、ドイツ(DIN)、イタリア(UNI)、スウェーデン(SIS)、大韓民国(KATS)、オーストラリア(SA)、日本(JISC)、計27名	土方 龍	<p>ISO TC110/SC2/WG2 第57回会議にて、ISO3691-1、-6、-8のコメント協議と、今後の会議の日程調整を討議しました。</p> <p>ISO3691-1は、前回会議で宿題となったコメントの再協議と欧州機械規則へのGAPアナリシスなどを実施し、数値の引用先の確認や曖昧な表現の見直しを実施しました。</p> <p>ISO3691-6は、前回会議で宿題になったコメントの再協議を実施し、数値の引用先の確認や曖昧な表面の見直しを実施しましたが、再討議する内容が多数あり、今後も継続協議し、提案規格を作成目指します。</p> <p>ISO3691-8は、特に討議する内容はなく、項目番号の訂正のみで終了しました。</p> <p>今後予定は、対面会議のみではなく、バーチャル会議も併用し、協議を推進していくことで各国合意しました。</p>

令和6年度 ISO/IEC国際会議への専門家派遣に係わる補助事業報告

会議名	開催地	開催日	参加国・機関及び人数	出席者（報告者）	概要
IEC/TC66プレナリー, WG1, WG2	アメリカ マサチューセッツ州	2024/6/3-7	WG1 対面参加：イギリス、フランス、アメリカ、ドイツ、ノルウェー、スウェーデン、日本、計18名。遠隔参加：デンマーク、オーストリア、スイス、ドイツ、アメリカ、日本、約8名 WG2 対面参加：イギリス、フランス、アメリカ、ドイツ、カナダ、日本、計9名。遠隔参加：ドイツ、アメリカ、オーストリア、日本、デンマーク、約6名	塚越 宏之	1. WG1: IEC 61010-1/AM2 CD3へのコメント審議 3日間の会議が行われ技術的なコメントのみが審議された。日本の提案は約9割が採用または部分的に採用される結果になった。エディトリアルなコメントに対する審議は無く、その修正作業は主査の裁量に任せることで会議は終了した。次回会議は2024年10月のIEC General Meetingに合わせてエジンバラで行われる。次の審議文書は、多くの委員がCDVを期待していたが、7週間の翻訳期間と12週間の投票期間を考慮すると次回会議までには間に合わないため、CD4として配布することになった。また、AM2の継続またはED.4へ転換するかは、次回のプレナリー会議で正式に決定することとした。次々回の会議（2025年）は東京で開催することをアナウンスした。東京ではCDVの投票とコメント審議になる見込み。 2. WG2: IEC 61010-2-03Xシリーズ規格 IEC 61010-2-03Xのシリーズ規格は、次の改正に向けて準備作業を行っている。今回の会議では英国が準備した改正案と、他委員からの質問についてディスカッションを行った。規格は部分的に見直しが必要であり、次回会議（エジンバラ）までに具体的な案をまとめ、審議を継続することとした。IEC 61010-2-03X規格のメンテナンス作業は、2025年にIEC 61010-1/AM2またはED.4のCDVが発行され次第開始する予定。
ISO/TC92/SC1,SC3	イギリス ベルファスト	2024/4/8-10	ISO/TC92/SC1 日本3名、フランス2名、アメリカ1名、イギリス3名、ドイツ2名、デンマーク1名、マレーシア4名、韓国2名、オランダ3名、オーストラリア2名、イタリア1名、中国2名、カナダ2名、ISO/TC92 1名、ISO/TC92/SC1 1名、ISO/TC92/SC3 1名、IEC/TC89 1名（計32名） ISO/TC92/SC1/WG7 日本2名、スウェーデン1名、アメリカ1名、中国1名、イギリス5名、ドイツ2名、フランス2名、デンマーク1名、オランダ2名、オーストラリア1名、イタリア1名（計19名） ISO/TC92/SC1/WG10 日本3名、オーストラリア1名、中国1名、デンマーク1名、ドイツ1名、イタリア1名、オランダ1名、スウェーデン1名、イギリス5名、アメリカ1名（計16名） ISO/TC92/SC3 日本6名、フランス2名、イギリス1名、ドイツ3名、マレーシア4名、ロシア1名、韓国1名、オランダ3名、ギリシャ1名、オーストラリア2名、中国2名、カナダ2名、トリニダードトバゴ1名、イタリア1名、ISO/TC92 1名、ISO/TC92/SC1 1名、ISO/TC92/SC3 2名、ISO/TC92/SC1/WG5 1名、ISO/TC61/SC4 1名（計36名）	吉岡 英樹	ISO/TC92/SC1/WG7（中・大規模火災試験方法）では、ISO/PWI 16211（ファサード防火のガイダンス文書）の進め方、ISO/CD 3957（バラレル・パネル試験）のDIS投票に向けた作業、ISO 13785-1（中規模ファサード試験）の改訂作業、ISO 13784-1（サンドイッチパネル用の実規模ルーム試験）の改訂作業について、議論した。特に、13784-1は出張者がProject Leaderとして議論を先導した。更にAOBとして、出張者が以前作成したISO/TS 23657:2022（サンドイッチパネル用の中規模箱型試験）について国際ラウンドロビン試験の可能性を打診し日本の他に、豪州、イタリア、韓国（韓国はWG開催前の声明）から支持があり、次回の秋会議にて詳細を議論することとなった。 ISO/TC92/SC1/WG10（中・大規模火災試験方法）では、出張者がコンビーナを務め、ISO/PWI 24909（熱電対）の進捗に関して議論し、特に熱電対の各試験機関における使用実態について欧州EGOLFに対して、アンケートを発送し、その際当該WG10の欧州委員がサポートされるむね合意した。ISO 14934-2: 2013（熱流束計のキャリブレーション）のSR投票結果としてConfirmされた旨、確認した。AOBとして、欧州CEN TC 127 WG 4では、光源として白色光とLEDの代替性について緊急事態と認識しており、当該SC1/WG10で以前出張者が作成したISO/TS 19850:2022（LED）とISO 3182:2022（白色光）がCENでも参照される旨の報告が、英国委員からなされた。更に、英国FTTでは、ISO/TS 19850:2022に基づく基礎研究作業を実施しており、次回秋会議でその内容を紹介することとなった。ISO/TC92/SC1（火災の発生と発達）では、出張者が日本代表およびSC1/WG10コンビーナを務め、各WGからの発表が各コンビーナからなされたと共に、改定作業等で決議が必要な案件に関して、決議を実施した。更に、他の枠組とのリエゾン報告がなされ、次回秋会議の予定が周知された。 ISO/TC92/SC3（人間及び環境への火災による脅威）では、火災及びその生成物が人間や環境に及ぼす影響の分析及び評価のための測定や検証を含む手順及び計算方法の標準化について議論を行った。また、傘下のWGからの報告を受け、各規格に対しての決議を行った。

令和6年度 ISO/IEC国際会議への専門家派遣に係わる補助事業報告

会議名	開催地	開催日	参加国・機関及び人数	出席者（報告者）	概要
ISO/TC92/SC1,SC4	イギリス ベルファスト	2024/4/8-11	ISO/TC92/SC1/WG5 日本5名、オーストラリア1名、カナダ1名、中国1名、デンマーク1名、フランス1名、ドイツ2名、イタリア1名、オランダ1名、スウェーデン1名、イギリス4名、アメリカ1名、ISO/TC92/SC1/WG5 1名（計21名） ISO/TC92/SC1/WG11 日本4名、オーストラリア1名、カナダ1名、中国1名、デンマーク1名、イタリア1名、オランダ3名、スウェーデン1名、イギリス6名、アメリカ1名、ISO/TC92/SC1/WG11 1名（計21名） ISO/TC92/SC4 日本3名、オーストラリア2名、オーストリア1名、カナダ2名、中国4名、デンマーク2名、フランス2名、韓国3名、マレーシア2名、オランダ2名、ニュージーランド1名、ロシア2名、サウジアラビア1名、スロバキア1名、スウェーデン1名、ISO/TC92/SC3 1名、ISO/TC92/SC4 2名、ISO/TC92/SC4/WG10 1名、ISO/TC92/SC4/WG13 1名、その他2名（計36名） ISO/TC92/SC4/WG7 日本2名、カナダ1名、フランス1名、その他10名（計14名） ISO/TC92/SC4/WG9 日本2名、オーストリア1名、カナダ3名、中国3名、フランス5名、韓国1名、ニュージーランド1名、オランダ1名、その他1名（計18名） ISO/TC92/SC4/WG12 日本2名、オーストリア1名、カナダ2名、中国4名、フランス5名、ニュージーランド2名、韓国1名、チェコ1名、ISO/TC92/SC4 1名、effectis 1名（計20名）	原田 和典	ISO/TC92/SC1（出火および火災成長）では、各種材料、設備、構法等の出火および出火後の火災拡大に係わる試験法の標準化に係わる議論が行われた。WG5 では、ISO 5660-1 小規模試験装置の改良と試験手順の検討が行われた。日本からは、コーンカロリメータ試験で壁を模擬して鉛直向きに試験体を設置する場合の手順について、実験データを含めて技術提案を行った。これは、現在改訂作業が行われているISO5660-1 または5660-3 に反映されることを目指して作業を行っている。 また、WG11 では材料・構法の火災試験結果を建築物等の火災安全性能設計に適用する方法を検討しており、日本提案を含む技術レポートCDTR 22099 を結審しDIS へ進むことが決定された。また、それに続きPWI24905 の初期段階のドラフトを日本から提案し、継続審議とした。 ISO/TC92/SC4（火災安全工学）では、性能に基づく火災安全設計の方法論を検討している。WG9 では、火災安全工学のための計算方法の開発を行っている。出張者はこの作業部会の座長を務めており、全体の統括と開発中のフラッシュオーバー文書ISO 24678-6 の検討を行った。 WG12 では、鋼構造物の耐火設計法について、日本の建物の例題をTR24679-4 の改訂版として作成し、技術文書として提案した。今回の会議での審議でこの文書はほぼ完成し、次回会議での結審を目指している。
ISO/TC92/SC4	イギリス ベルファスト	2024/4/8-11	ISO/TC92/SC4 日本3名、オーストラリア2名、オーストリア1名、カナダ2名、中国4名、デンマーク2名、フランス2名、韓国3名、マレーシア2名、オランダ2名、ニュージーランド1名、ロシア2名、サウジアラビア1名、スロバキア1名、スウェーデン1名、その他7名（計36名） ISO/TC92/SC4/WG1 フランス2名、オーストリア1名、オランダ1名、日本3名、ニュージーランド1名、中国3名、トニニダートバコ1名、チェコ1名（計15名） ISO/TC92/SC4/WG6 フランス3名、オーストリア1名、オランダ1名、日本3名、韓国2名、ニュージーランド1名、中国3名、カナダ3名、トニニダートバコ1名、チェコ1名（合計20名） ISO/TC92/SC4/WG10 日本2名、チェコ1名、オランダ1名、その他13名（計17名） ISO/TC92/SC4/WG11 日本3名、スウェーデン1名、オランダ1名、その他19名（合計24名） ISO/TC92/SC4/WG13 日本3名、フランス3名、オーストリア1名、オランダ1名、韓国3名、ニュージーランド1名、中国2名、カナダ1名（計16名）	鍵屋 浩司	ISO/TC92/SC4（火災安全工学）では、性能に基づく火災安全設計の方法論を検討している。 WG1 では、そのためのフレームワークとして、リスク概念に基づく想定火災の設定方法をTR23801 として日本から提案している。また、TR24271 として性能設計された建物の許認可システムの調査を日本のリーダーシップで行っており、会議ではその進捗状況を報告し審議を行った。 WG6 では、PWI 24863 の進捗報告およびPNWI の調査報告が行われ、そのうちエネルギー貯蔵システムのプレゼンテーションがあった。またISO 16733-1:2015 のSR 投票の投票結果が確認された。 WG10 では、リスクに関連する他のWG の作業項目やコメントについて議論するとともに、ISO16732-1 の改訂について審議が行われた。 WG11 では、PNWI としてBIM の活用について説明が行われるとともに、ISO/TS 29761 :2016 の改訂について審議が行われた。 WG13 では、NP 20710-2 について説明され、作業メンバーの追加、関連する試験法の照会が行われた。また、PWI 20710-3 の進捗状況の報告および内容について審議が行われた。
ISO/IEC JTC1 SC31/WG4	カナダ トロント	2024/6/12	フランス・AFNOR、米国・ANSI、オーストリア・ASI、GS1、日本・JISC、韓国・KATSなど計43名（オンライン参加を含む）	三次 仁	日本提案であるISO/IEC 18000-65のad-hoc 編集チームの草稿作成プロセスの報告と、ドラフトをProject Editorとして紹介。CDコンサルテーションに回付することとなった。

令和6年度 ISO/IEC国際会議への専門家派遣に係わる補助事業報告

会議名	開催地	開催日	参加国・機関及び人数	出席者（報告者）	概要
ISO/TC199/WG5	イタリア ポローニャ	2024/7/8-11	15か国（ANSI-USA, SA-Australia, ASI-Austria, SCC-Canada, SAC-China, UNMZ-Tszech Rp, SFS-Finland, AFNOR-France, DIN-Germany, UNI-Italy, JISC-Japan, IPQ-Portugal, SIS-Sweden, BSI-United Kingdom）計28名	築山 和成	機械の安全性向上と労働災害防止に寄与するため、機械の安全性に関する国際規格ISO12100の改定審議に参画した。日本からの提案内容のうち90%は受理され、表現の修正を行いDIS原案に反映されたため、会議参加の目的を達成することができた。また、日本の機械安全規格開発へのプレゼンス向上や、欧州への機械輸出企業が対応すべき安全設計要件についての情報収集も行うことができた。今回の会議ではCD（Committee Draft）に対する各国からのコメント審議をすべて完了し、DISステージに進むことが確認された。DISは2024年12月に発行の見込みであり、DISに対する審議は2025年4月以降に予定されている。本会議では、リモートアクセスに起因するリスクに対処するための新たな規格開発の必要性が合意され、2024年9月に、ISO/TC199/WG5エキスパートによりNWIP（New Work Item Proposal）発行の準備作業が進められる。
ISO/TC 110/SC 2/WG 15	カナダ パーリントン	2024/7/8-12	アメリカANSI：11名、フランスAFNOR：7名、ドイツDIN：6名、カナダSCC：6名、イタリアUNI：3名、イギリスBSI：2名、フィンランドSFS：1名、スウェーデンSIS：1名、ベルギーNBN：1名、オーストラリアSA：1名、日本JISC：1名、事務局：3名 計42名	延廣 正毅	ISO3691-4:2023, ed.2, Industrial trucks — Safety requirements and verification — Part 4: Driverless industrial trucks and their systems（無人搬送車及び無人搬送車システム－安全要求事項及び検証）のed.3改訂に向けた第2回会議が開催された。現行のISO3691-4 ed.2が機械指令の整合規格になったことが報告された。また、現在改訂作業中のed.3は機械規則への整合を目指していることから、ギャップ分析が報告された。前回会議で設立された7つのタスクフォースからの進捗および提案が報告された。その後、全コメント316件中275件まで（内日本のコメント：18/19件）コメント審議を行い、その場で結論の出ない課題に対してさらにタスクフォースを追加で2つ設立して審議を継続することとなった。今後の当WGの会議予定は2024年10月（於：UNM、フランス・クールブヴォア）、12月（於：Web（10月会議で審議が終わらない場合に開催））であったが、コメント審議に予想以上に時間がかかっているため、対面会議が2025年2月（於：VDMA、ドイツ・フランクフルト）に追加されることになった。なお、当初予定の2024年10月のCD発行は間に合わないため、ISO/TC 110/SC 2に9か月の延長を申請することとなった。日本からの提案は多くが継続審議となっているため、タスクフォースも含め、今後も積極的に参加して日本の意見を主張していく。
ISO/TC160/WG9/JWG11	中国 成都市	2024/6/11,14	合計39名 ISO/TC160/WG9 22名 (出席国)英国、中国、日本、ベルギー、米国、ドイツ、豪州、オランダ IEC/TC82/JWG11 17名 (出席国) 英国、中国、日本、ドイツ、ベルギー、豪州、スペイン、韓国、オーストリア	久田 隆司	・新提案①建物一体型太陽光発電装置の廃棄判断の技術的評価：構造的安全性/電気的安全性の両面から寿命を迎えた時BIPVの廃棄判断において、BIPVのたわみ量で規定化する案が中国より提出。根拠が曖昧だが、欧州側意見も有ったが継続審議とし、PWIから開始とした。 ②BIPV Moduleの設置/MaintainanceのAccessibility評価：Sash + BIPV設置/メンテナンス時のBIPV Module上の歩行荷重に対するガラス強度/太陽電池発電能力評価案が中国より提案。TC160欧州は計算評価/中国は実験（実大）評価必要との主張で議論平行線。更に議論が必要と判断され、投票で反対/棄権に投票したTC160 P memberへ意見を求めるとした。③BIPV Moduleの識別コード：BIPV Moduleの識別コード統一目的の案が中国より提出。欧州の規格化検討と2030年頃にガラス製品の協議になるとの情報提供有り。IEC側も賛同しており、ISO側主張をIEC内にFeed backし、再協議可否判断をすとした。 ・継続議題①ISO 18178改正：BIPV Module評価試験追加、かつ合わせガラス以外に複層ガラス（Double/Triple）の包含の中国提案有り。Title含めた改正必要で各国から多数の意見寄せられた。ISO 18178改正期限が半年後故、18178記載内容をIEC 63092に取り込み、JWG11で項目追加の議論をすとした。また、ISO 18178改正作業期間も1年間延長で合意。②IEC 63092-3：IEC側提案。G-valueをISO 9050ベースとすとした。
ISO/IEC JTC 1/SC 35, WG1,2,4,5,6,9,10	カナダ サスカトゥーン	2024/8/26-30	カナダ(2), 日本(8), ドイツ(1), 連合王国(1), 韓国(10), 中国(8), フランス(3), スウェーデン(1), ITU(1) 計35名(ネット参加を含む)	池田 宏明	各WGに割り当てられたSC 35プロジェクト（20件）について、事前に提出された各国意見及び会議の席上で出された意見を審議して作業文書を更新した。その結果、DIS登録（40.0）9件、CD登録（30.00）6件、WDを更新するもの4件とする成果を得た。1件のNPは投票の結果否決されたが、新しいタイトルでPWIとした。 日本提案であるISO/IEC CD 20931 情報技術 — ユーザー インターフェース — サービス付きオフィスのサービスを表すアイコンはCDをDIS登録する方向とすることを決議し、また、日本提案であるISO/IEC NP 24216-1 情報技術 — アパターのユーザー インターフェースの指針 — 第1部：総則 はNPが承認されWDの登録(20.00)を決議した。これにより、我が国の競争力の向上、我が国の安全安心の向上、対象となる案件が発行された時の我が国への不利益を回避するなど、所期の目標を達成した。 日本提案のプロジェクトは新規産業にからみ、今後の波及効果が期待される。